

# 変動期の学術基盤を考える

— オランダ調査を手がかりに —

2015年1月26日(月) 15:00~18:00 (受付開始14:30)

会場: 模擬法廷 (大阪大学豊中キャンパス 豊中総合学館 5F)

日本の学術基盤の現状  
Horizon2020について  
オランダ調査報告

三成 賢次 大学院法学研究科 教授  
望月麻友美 大型教育研究プロジェクト支援室 URA  
川人よし恵 大型教育研究プロジェクト支援室 URA  
山田 綾子 大学院法学研究科 特任研究員  
伊藤 京子 大型教育研究プロジェクト支援室 URA (報告順・敬称略)

ディスカッション

総合司会: 福井 康太 大学院法学研究科 教授

今日、世界的な規模で科学技術だけでなく社会のイノベーションが進みつつある中で、これまでの学術の体系も大きく変化しようとしている。そのような「知」の変動は、学術に関わるどのような物的、人的な仕組み、つまり学術基盤の変化と関わっているのか。そうした問題は、高度専門職における領域横断的なコミュニケーションの環境の創出を目的とする本科研の共同研究にとっても重要な関心事であり、検討すべき課題である。

今回の研究会は、科研メンバーと法学研究科の研究支援担当者、そして大阪大学URAスタッフのコラボのもとに、2014年から始まったEUの新たな科学技術・イノベーションのための投資計画であるHorizon2020やオランダにおける研究活動を支える体制についての調査報告を通して、従来の研究分野、とりわけ人文・社会科学分野がどのような方向性をもって他の研究分野と関わり、融合化されようとしているのか、またそれを促進しようとする学術基盤の新たな方向性について検討することを目的とするものである。

研究分野を問わず、また広く研究活動に携わる多くの方の参加のもとに活発な意見交換がなされることを期待するところである。

研究代表者 三成賢次



◆アクセス Access <http://www.osaka-u.ac.jp/access/>

大阪大学 豊中キャンパス 〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3

○阪急電車宝塚線 石橋駅(特急・急行停車)下車 東へ徒歩 約20分  
○大阪モノレール 柴原駅下車 徒歩約10分

## 【参加申込方法】 ※どなたでもご参加いただけます。

①氏名、②ご所属、③連絡先(メールアドレス)を明記の上、メールにてお申し込みください。  
(会場準備の都合上、事前参加申し込みをお願いしております。当日受付も可能です。)

大阪大学大学院法学研究科 トランスプロフェッショナル・リテラシー科研事務局

[担当:山田] E-mail: [transprofessional\\_literacy@law.osaka-u.ac.jp](mailto:transprofessional_literacy@law.osaka-u.ac.jp)